

令和4年度
東京大学アジア研究図書館
活動報告書

令和 4 年度アジア研究図書館活動報告書目次

I 令和 4 年度の特記事項	1
II 図書事業	2
2.1 資料のデジタル化	2
2.2 利用者サービス、広報	2
(1) 利用者サービス.....	2
(2) 広報.....	2
2.3 規則策定	2
(1) アジア研究図書館資料寄贈受入要領の策定.....	2
(2) アジア研究図書館分館分室設置に係る協定書の策定	2
2.4 資料の収集・管理	3
(1) 移管の進捗.....	3
(2) アジア研究図書館選書委員会.....	3
(3) 購入資料	3
(4) 寄贈資料一覧	5
2.5 学内との連携.....	5
(1) 図書館実習（インターンシップ）への登壇.....	5
(2) 学生協働	5
(3) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携.....	5
2.6 社会連携活動.....	6
(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加	6
2.7 海外機関との連携	6
(1) TRCCS からの資料寄贈	6
(2) 北京市文学芸術界連合会からの書籍寄贈および贈呈式	6
(3) 第 4 回 TRCCS 台湾漢学講座.....	6
2.8 図書関係ワークショップ	6
(1) 「インターフェースを越えて：デジタル人文学のためのデータとしての TEI」	7
(2) 「デジタルカタログとデジタルライブラリー：コレクションデータのための TEI の活用」	7
2.9 アジア研究図書館会議	7
(1) 運営委員会.....	7
2.10 統計	8
(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数の経年変化	8
III 研究事業	9
3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加	9
(1) 第 21 届中国古典小説戏曲文献暨数字化国际研讨会／第 21 回中国古典小説・戯曲文献及びそのデジタル化国際学会	9

(2) エジプト学若手研究者養成セミナー（2022 年度夏期）	9
(3) 第 1 回アジア研究図書館資料セミナー「中国仏教研究資料探索」	9
(4) 人文社会科学系組織連絡会議共催イベント「人文社会ウィーク 2023」	9
(5) 「アジアの資料をむすび、ひらくーデジタルコレクションの可能性ー」展および記念セミナー「東京大学所蔵『水滸伝』諸版本について」	9
3.2 成果の公開	10
(1) アジア研究図書館叢書	10
3.3 協働型アジア研究拠点の形成	10
3.4 個人研究業績	10
(1) RASARL メンバー	10
(2) U-PARL メンバー	15
IV. 構成員等名簿	21
4.1 運営委員会名簿	21
4.2 構成員名簿	21
別紙 1	23

注記：

東京大学附属図書館にはアジア研究図書館研究開発部門およびアジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の 2 部門が存在している。本報告書では略称を用い、前者を RASARL

（Research Advancement Section for the Asian Research Library）、後者を U-PARL（Uehiro Project for the Asian Research Library）と表記する。U-PARL は国立大学法人東京大学の運営費ではなく公益財団法人上廣倫理財団からの寄付金によって運営されている。そのため U-PARL の予算を使用した活動についてはその旨明記した。

I 令和4年度の特記事項

館長 佐川英治

令和4年7月、アジア図書館館長が城山智子（経済学研究科）から佐川英治（人文社会系研究科）に交代した。また、研究開発部門助教2名のうち1名（鈴木舞）の退職に伴い、令和4年4月、後任1名（河野正）が着任した。令和3年度に引き続き、選書委員会の活動を通じてコレクションの構築を進めるとともに、アジア研究図書館叢書第2巻・第3巻を刊行した。

II 図書事業

2.1 資料のデジタル化

(1) 館内所蔵資料

令和4年度はユネスコ・アジア文化センター（ACCU）識字教育資料のうち、主に『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』2・3に収録されるポスター類のデジタル化を行った他、AV資料のデジタル化も進めた（関連項目：3.2(1)アジア研究図書館叢書）。

またU-PARLでは『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション』を構成する「水滸伝コレクション」へ以下の資料を追加し公開した。

- ・水滸伝全本 三十巻
- ・新刻全像水滸伝 二十五巻一百十五回

同じく、『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション』を構成する「エジプト学研究のためのデジタル資源／Digital Resources for Egyptian Studies」へ以下の資料を追加し公開した。

- ・Denkmaeler aus Aegypten und Aethiopien

2.2 利用者サービス、広報

(1) 利用者サービス

本学の全学事業「オンキャンパスジョブ活用による新図書館の効果的運用」を利用し、博士課程学生3人をカウンタースタッフとして雇用し、貸出業務や利用者対応等を行った。当該学生らはカウンター業務の他、アジア研究図書館所蔵資料の整理業務も担当した（関連項目：2.5.2 学生協働）。

(2) 広報

A. ニュースレター発行

令和4年度は第7号（令和4年4月1日発行）、第8号（令和4年7月1日発行）、第9号（令和4年10月3日発行）、第10号（令和5年1月10日発行）、合計4号を発行し、当館ウェブサイトで公開した。

参考URL：<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/newsletter>

B. 図書館総合展

令和4年11月1日～30日に開催された第24回図書館総合展2022_ONLINE_Plusにおいて、U-PARLがポスターセッションの形式で研究活動報告をおこなった。

参考URL：<https://2020.libraryfair.jp/poster/2022/72>

2.3 規則策定

(1) アジア研究図書館資料寄贈受入要領の策定

令和5年1月26日に開催された令和4年度第6回アジア研究図書館運営委員会にて、アジア研究図書館資料寄贈受入要領について協議が行われ、その討論をふまえて、同年2月15日開催の第7回委員会にて同要領が了承された（巻末別紙1参照）。

(2) アジア研究図書館分館分室設置に係る協定書の策定

令和5年3月24日に開催された令和4年度第8回アジア研究図書館運営委員会にて、アジ

ア研究図書館分館分室設置に係る協定書について協議が行われ、了承された（協定の締結は東洋文化研究所所長・人文社会系研究科長の交代後となるため、確定版は令和5年度の本報告書に掲載する）。

2.4 資料の収集・管理

令和4年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が3,251冊、購入分が547冊、寄贈分が3,149冊で合計6,947冊であった。これにより3月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は56,648冊（うち自動書庫入庫冊数は13,147冊、開架蔵書冊数は43,501冊）となった。

(1) 移管の進捗

令和4年度からは、自動書庫への入庫を前提とした他部局からの移管を開始し、3,251冊の移管資料はすべて自動書庫へ配架された。また、開架書架の狭隘化により、令和2年度までに開架に配架した図書のうち、約900冊を自動書庫へ移動した。

また、開架資料は令和3年度までに他部局から移管した資料の整理を令和4年度も引き続き行い、令和5年3月末までに累計27,222冊の配架が完了した。

(2) アジア研究図書館選書委員会

令和4年5月30日に令和4年度第1回、9月27日に第2回、11月7日に第3回選書委員会が開催された。選書委員会の構成は以下の通り。

委員長 森本一夫

担当地域	主担当	副担当
1 アジア	永井正勝 ※令和4年度第6回運営委員会（令和5年1月26日） の承認を経て退任	
2 東アジア	河野正	荒木達雄、中尾道子
3 東南アジア	澁谷由紀	
4 南アジア	河崎豊	須永恵美子
5 中央ユーラシア	河原弥生	宮本亮一
6 西アジア	徳原靖浩	
事務局	原香寿子	

(3) 購入資料

A. 購入資料

1. アジア

永井特任准教授の選書委員辞任に伴い、各地域の担当者から推薦を募り、RASARL がとりまとめを行うこととなった。アジア研究の方法論およびアジアに関連する様々なテーマ（歴史、宗教、建築、移民、デジタル人文学、スポーツ等）についての英語の研究書を中心に、戦中～戦後の中国における日本語雑誌や、中国語の華僑華人研究文献等、合計56冊を購入した。

2. 東アジア

日本語・中国語・韓国朝鮮語・英語で記述された出版物を中心として選書を行った。和書は「満洲語『水滸伝』」シリーズ・「日中戦争期「対日協力政権」」シリーズ・「満洲国」地方誌集成」シリーズなど、近世・近代東アジアに関する史料的高いものを重点的に購入し、英文書は米国の大学出版会による中国学・東アジア学に特化したシリーズの研究書に重点を置いた。

3. 東南アジア

英語で記述された研究書を中心に 65 タイトルの選書を行った（うち 1 タイトルは昨年度選書・本年度到着分、3 タイトルは「1. アジア」予算分）。地域については東南アジア各地域に分散し、主題については歴史、政治、芸術が多数を占めた。とくに重点が置かれたのは、(1)チェンマイ（タイ）の出版社である **Silkworm Books** の出版物、(2)東ティモールに関する出版物、(3)フィリピン大学出版会の出版物、(4)中国で出版された東南アジア華語についての研究書であった。

4. 南アジア

南アジア地域において資料が不足する地域・言語を中心とした選書を行った。その特徴は大略以下のとおり：(1)パキスタン側パンジャーブで出版されたアラビア文字表記のパンジャービー語資料（文学、民謡、言語、歴史）(2)国内または本学に所蔵のない言語に関する参考図書（サラエキー語、パンジャービー語、ベンガル語、ナガミー語、ジュムリー語、マイティリー語、ボージュプリー語）(3)ブータンに関する諸資料(4)その他、継続して購入している諸資料（*Murti classical library of India*, *A comprehensive and critical dictionary of the Prakrit languages with special reference to Jain literature* など）。

5. 中央ユーラシア

ロシア語による考古学および言語学分野の研究書、中央アジア諸語による宗教、歴史、言語、文学に関する研究書を中心に選書した。特に重点を置いたのは、ロシアにおけるスキタイをはじめとする遺跡調査の成果物、中央アジア諸国において刊行されたクルアーンの注釈書、中央アジア各地のイスラーム聖者廟に関する研究書、現代の中央アジアの代表的な文学作品である。なお、古書を含む。

6. 西アジア

ササン朝期の貨幣史料集、エジプト学の研究書、アラビア語辞典、シリア語辞典といった参考資料のほか、欧米で刊行されたイスラーム法学、ジャーナリズム、経済、パレスチナ問題など現代的な主題の研究書を中心に選書を行った。また、現地語で書かれた資料では、イラン研究史に関するペルシア語図書、トルコ語で書かれたトルコ文学史を購入した（合計 38 冊）。

B. データベース

令和5年1月、台湾国家図書館のTRCCS（台湾漢学リソースセンター）が提供するデータベースに「『臨時臺灣舊慣調査會台湾私法暨附録参考書』資料庫」が追加された。

(4) 寄贈資料一覧

当館ではアジア研究者・諸機関から寄贈資料を受け入れてきた。令和4年度中に受入れが決定したコレクションは以下の通りである。

名称	寄贈年度	内容	点数
柳橋博之氏旧蔵資料	2022	イスラム法学に関する資料（主にアラビア語資料）	373
桑島昭氏旧蔵資料	2022	近現代インド社会（含・パキスタン、バングラディシュ）全般にわたるコレクション 英語・ヒンディー語・ベンガル語・ウルドゥー語など	290

2.5 学内との連携

(1) 図書館実習（インターンシップ）への登壇

河原准教授が令和4年9月16日に開催された令和4年度図書館実習（インターンシップ）において「アジア研究図書館の活動」と題する講義をおこなった。

(2) 学生協働

本学の博士課程学生支援オンキャンパスジョブ事業を利用し、当館所蔵資料の整理業務を行った。令和4年度にはベトナム語、ゾンカ語、ネパール語、マラーティー語、ヒンディー語、シンハラ語、中国語資料の整理をはじめ、ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料の整理をおこなった。この他、カウンター業務でも学生と協働している。（関連項目：2.2.(1)利用者サービス）

(3) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携

本学教員の著作について執筆者自らが紹介を行う UTokyo BiblioPlaza に、河原准教授・鈴木舞 RASARL 元助教の共編著 1 件、河原准教授の共著 2 件、河崎助教の共編著 2 件が収載された。それぞれについて、【 】内の著者が紹介を行った。

・河原弥生・鈴木舞編『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』1、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2022 年【河原】

・ *Documents from Private Archives in Right-Bank Badakhshan (Introduction)*, by Kawahara Yayoi and Umed Mamadsherozodshoev, NIHU Program Islamic Area Studies Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo, 2013【河原】

・ *Documents from Private Archives in Right-Bank Badakhshan (Facsimiles)*, by Kawahara Yayoi and Umed Mamadsherozodshoev, NIHU Program Islamic Area Studies Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo, 2015【河原】

・ *Index to the Aṅguttara-Nikāya*, compiled by S. Kasamatsu, Y. Kawasaki, and Y. Ousaka, Bristol: Pali Text Society, 2014【河崎】

・ U-PARL Cooperative Research in Asian Studies Series “New and Rare Words” Collected by Helen M. Johnson from Hemacandra’s *Triṣaṣṭiśālākāpuruṣacaritra*, compiled with correction and additional notes by Yutaka Kawasaki, Yumi Fujimoto, Shin Fujinaga, Kazuyoshi Hotta, Tokyo: Uehiro Project for the

Asian Research Library, The University of Tokyo Library System, 2022 【河崎】

2.6 社会連携活動

(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加

国立国会図書館関西館アジア情報室が平成 13 年度より開催しているアジア情報関係機関間の交流を図り、国全体としてのアジア情報資源の充実とアジア情報の流通促進に資することを目的とする国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会に参加し、徳原特任助教が報告を行った。今年度は「アジア資料の書誌作成スキルの共有と継承」をテーマとし、令和 5 年 2 月 10 日に Web 会議の形式で開催された。

徳原特任助教は「アジア資料の目録作成：課題と展望」と題した報告を行い、アジア資料の目録作成における課題について論じるとともに、スキルの共有に向けた U-PARL の取り組みとしてアジア資料目録作成ワークショップの実践等を紹介した。また、個別報告後の懇談時間には各機関の図書関係者と情報交換を行った。報告資料は国立国会図書館ウェブサイトで公開されている。

2.7 海外機関との連携

(1) TRCCS からの資料寄贈

台湾国家図書館と東京大学附属図書館間の台湾漢学リソースセンター (TRCCS) 協定に基づき、令和4年度も資料の寄贈を受けた。寄贈候補リスト受領後、令和4年5月27日に選書委員会を開催し寄贈希望リストを作成した。令和4年度は合計55冊受贈し当館に配架された。

(2) 北京市文学芸術界連合会からの書籍寄贈および贈呈式

日中国交正常化50周年を記念し、北京市文学芸術界連合会から当館へ、文学作品や北京・故宮をテーマとする学術書など書籍30冊が寄贈された。令和4年9月26日に出版クラブ（東京都千代田区）で開催された日中文学交流セミナー内で贈呈式が行われ、当館から佐川館長及び河野助教が出席した。

(3) 第4回 TRCCS 台湾漢学講座

台湾国家図書館漢学研究中心と東京大学附属図書館台湾漢学リソースセンター (TRCCS) の共催により、令和4年12月22日、第4回TRCCS台湾漢学講座がハイブリッド方式で実施された（現地会場は総合図書館大会議室）。国立成功大学の陳益源特聘教授により「《金雲翹傳》對世界的影響（『金雲翹伝』の世界への影響）」と題した発表が行われた。

2.8 図書関係ワークショップ

U-PARL と Cambridge Digital Library・AA 研基幹研究「記憶のフィールド・アーカイビング：イスラームがつなぐ共生社会の動態の解明」・国文学研究資料館・人文情報学研究所・科研費学術変革領域研究 (A)「イスラーム信頼学」(研究代表者：黒木英充 (ILCAA/SRC) 課題番号：20H05823)・TUFs フィールドサイエンスコモンズの共同開催により、連続講演会「TEI (Text Encoding Initiative) × Library が拓くデジタル人文学と図書館の未来」が以下の要領で実施された。講演者は Yasmin Faghihi 氏（ケンブリッジ大学図書館中近東部門長）・Huw Jones 氏（ケンブリッジ大学デジタル・ライブラリー・ユニット長、デジタル人文学コーディネーター）。

(1) 「インターフェースを越えて：デジタル人文学のためのデータとしての TEI」

デジタルカタログである FIHRIST とデジタルライブラリーである Cambridge Digital Library を事例に、TEI データセットの人文科学分野における活用と、研究成果をデジタルアーカイブに統合する方法を主題として、講演会「インターフェースを越えて：デジタル人文学のためのデータとしての TEI」が令和 5 年 2 月 18 日にハイブリッド方式で実施された。

(2) 「デジタルカタログとデジタルライブラリー：コレクションデータのための TEI の活用」

写本資料の統一的なカタログとして確立されている FIHRIST と、記述データと画像データを組み合わせたリポジトリとしての Cambridge Digital Library を例にとり、文化遺産資料のデータセットの作成を主題として、講演会「デジタルカタログとデジタルライブラリー：コレクションデータのための TEI の活用」が令和 5 年 2 月 21 日にハイブリッド方式で実施された。

2.9 アジア研究図書館会議

(1) 運営委員会

今年度の運営委員会は以下の通り開催された。

	開催日	出席委員数
第 1 回運営委員会	令和4年5月23日	12名
第 2 回運営委員会	令和4年7月4日（メール審議）	—
第 3 回運営委員会	令和4年9月12日	13名
第 4 回運営委員会	令和4年10月28日	9名
第 5 回運営委員会	令和4年11月25日	12名
第 6 回運営委員会	令和5年1月26日	13名
第 7 回運営委員会	令和5年2月15日	12名
第 8 回運営委員会	令和5年3月24日	12名

この他、RASARL・U-PARL間の部門間連絡会議（毎月1回）、RASARL・事務部間の事務部連絡会（隔週）も開催された。

2.10 統計

(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数の経年変化

配架冊数経年変化		単位：冊
地域別分類（大型本・自動書庫含む）		2022年度末 配架冊数
1	アジア（東洋文庫を含む）	4,278
2	東アジア	17,627
3	東南アジア	6,139
4	南アジア	8,305
5	中央ユーラシア	4,631
6	西アジア	9,590
TRCCS	TRCCS	781
R1	参考図書（アジア）	30
R2	参考図書（東アジア）	397
R3	参考図書（東南アジア）	235
R4	参考図書（南アジア）	310
R5	参考図書（中央アジア）	158
R6	参考図書（西アジア）	225
その他	製本雑誌	240
合計		52,946
貸出数		冊
		1847
資料費		単位：千円
	RASARL	4,293
	U-PARL	1,041
	合計	5,334

III 研究事業

3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加

(1) 第 21 届中国古典小説戏曲文献暨数字化国際研討会／第 21 回中国古典小説・戯曲文献及びそのデジタル化国際学会

U-PARL 協働型アジア研究プロジェクト 3「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」(代表：荒木達雄)と首都師範大学中国伝統文化数字化研究中心の共同開催により、国際学会「第 21 届中国古典小説戏曲文献暨数字化国際研討会」が令和 4 年 8 月 29 日にオンライン方式で実施された。中国の古典小説・古典戯曲に関する「版本研究」、「目録学研究」、「デジタル化に関する研究」を共通の範囲として、中村覚氏による基調講演、金文京氏・中川諭氏・周文業氏による講演、13 名の報告者による研究報告がおこなわれた。

(2) エジプト学若手研究者養成セミナー (2022 年度夏期)

U-PARL 協働型アジア研究プロジェクト 1「古代エジプト研究の総合知創出に向けた基礎的取り組み」(代表：永井正勝)主催によるオンラインセミナーが、令和 4 年 9 月 1 日～4 日の 4 日間にわたり開催された。本セミナーは、エジプト文明に関心を持ち、エジプトに関する内容で論文(卒業論文、修士論文、博士論文など)を執筆する予定のある学部生・院生を対象に、エジプト学の諸分野に関する基礎知識を学ぶ場を提供するインターカレッジの講座として開講された。プログラム構成は以下のとおり。

- ・9 月 1 日(木)「言語学からみた古代エジプト語資料のドキュメンテーション：文字、語、構文の記述」永井正勝(専門：エジプト言語学)
- ・9 月 2 日(金)「エジプト学における歴史学的研究：前 1 千年紀のエジプト史研究を例として」藤井信之(専門：エジプト史)
- ・9 月 3 日(土)「遺物と科学」山花京子(専門：遺物と科学)
- ・9 月 4 日(日)「古代エジプト建築・美術研究」安岡義文(専門：エジプト建築学)

(3) 第 1 回アジア研究図書館資料セミナー「中国仏教研究資料探索」

令和 4 年 10 月 12 日東京大学本郷キャンパス法文 1 号館にて、河野助教が人文社会系研究科「日本仏教文献研究(2)」と共催で第 1 回アジア研究図書館資料セミナー「中国仏教研究資料探索」を実施した。本セミナーでは主に中国仏教研究を志す大学院生を対象として、中国語圏における研究動向の紹介や、関連資料・文献のアクセス方法等の紹介を行った。

(4) 人文社会科学系組織連絡会議共催イベント「人文社会ウィーク 2023」

当館が参加する本学の人文社会科学系組織連絡会議の活動として、令和 5 年 3 月 6 日から 3 月 12 日まで、「人文社会ウィーク 2023」が実施された。当館からは U-PARL が「アジアの資料をむすび、ひらくーデジタルコレクションの可能性ー」展および記念セミナー「東京大学所蔵『水滸伝』諸版本について」開催という形で活動に参加した。(詳細は次の項目)

(5) 「アジアの資料をむすび、ひらくーデジタルコレクションの可能性ー」展および記念セミナー「東京大学所蔵『水滸伝』諸版本について」

令和 5 年 3 月 6 日から 4 月 21 日まで、U-PARL 作成・提供「アジア研究図書館デジタルコレクション」の原資料を展示する「アジアの資料をむすび、ひらくーデジタルコレクションの可能性ー」展が U-PARL により開催された。総合図書館 1 階の展示スペースにおいて、デジタル

化された資料の実物（原資料）を展示するとともに、モニターによるデジタル資料の紹介、デジタル資料を活用した人文社会科学の展開についてのパネル展示を行った。また、3月6日には学内の学部生・院生向けにデジタルコレクションに収録された水滸伝資料の研究事例を紹介する記念セミナー「東京大学所蔵『水滸伝』諸版本について」（講師：荒木特任研究員）が開催された。

3.2 成果の公開

(1) アジア研究図書館叢書

令和3年度に創刊した「アジア研究図書館叢書」の刊行を継続した。令和4年度は第2巻・第3巻として『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』2・3を刊行した。平成26年にユネスコ・アジア文化センターから受贈したアジア太平洋地域の識字教育資料のうち、本目録の2は、オーストラリア（1点）、フィジー（4点）、インドネシア（340点）、カンボジア（159点）、ラオス（119点）、ミャンマー（199点）、マレーシア（81点）、フィリピン（154点）、パラオ（1点）、パプア・ニューギニア（98点）、ソロモン諸島（1点）、タイ（229点）、ベトナム（201点）の13カ国計1,587点の書誌を収録し、本目録の3は、バングラデシュ（422点）、ブータン（68点）、インド（301点）、スリランカ（103点）、モルディヴ（37点）、ネパール（203点）、パキスタン（226点）の7カ国およびその他の資料（21点）から成る計1,381点の書誌を収録している。

3.3 協働型アジア研究拠点の形成

令和4年度にはU-PARLにて以下の7つの研究プロジェクトが実施された。

- ・プロジェクト1「古代エジプト研究の総合知創出に向けた基礎的取り組み」（代表：永井正勝）
- ・プロジェクト2「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成ワークショップとマニュアル作成」（代表：徳原靖浩）
- ・プロジェクト3「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」（代表：荒木達雄）
- ・プロジェクト4「近現代東南アジアにおける出版に関する研究：ベトナムとタイを中心に」（代表：澁谷由紀）
- ・プロジェクト5「南アジア関連資料のデジタル画像化とテキスト化に関する研究」（代表：須永恵美子）
- ・プロジェクト6「東京大学所蔵アジア研究情報資源の組織化と公開に関する研究」（代表：中尾道子）
- ・プロジェクト7「フンの時代における中央ユーラシア～南アジアの歴史と社会」（代表：宮本亮一）

3.4 個人研究業績

期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

略号：①書籍②雑誌論文・本の一章③その他刊行物等④口頭発表⑤受賞⑥競争的資金⑦社会活動・教育活動等

(1) RASARL メンバー

佐川英治（館長・RASARL 部門長・兼務教員/人文社会系研究科）

- ①佐川英治編著『多元的中華世界の形成—東アジアの「古代末期」—』臨川書店、2023年2月、360頁。
- ②佐川英治「英雄は聖人の夢を見る—五胡十六国時代 覇者たちの栄光と挫折—」、姜尚中総監修『アジア人物史 第2巻 世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア』集英社、2022年2月、55-112頁。
- ③佐川英治「講演録：嘎仙洞刻石祝文にみる北魏王権の多元性—天子・皇帝・可汗・太平真君の称号をめぐる—」『東洋史苑』第96号、2022年9月、1-14頁（招待）。
- ④佐川英治「中日古代都城制的中軸線功能」（中国語）、第3届中国文化研究国際論壇、西北大学歴史学院（オンライン）、2022年8月25日（招待）。
- ④佐川英治「孫呉政治史と赤壁の戦い」、日本中国学会第74回大会、早稲田大学、2022年10月9日。
- ④佐川英治「漢末碑文習慣与禁碑令」（中国語）、シンポジウム「碑之転身—中古中国石碑与石刻文化学術検討会—」、復旦大学（オンライン）、2022年10月30日（招待）。
- ④佐川英治「皇帝が天子を称するとき—中国の多元化と東部ユーラシア世界—」、史学会シンポジウム「君主号と歴史世界」、東京大学、2022年11月12日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「東アジア史における「古代末期」の研究」課題番号18H00720（研究代表者：佐川英治）、研究代表者、2018年度～2022年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「南縁・東縁地域における郡県都市の変容からみた「漢帝国の遺産」の東アジア史的意義」課題番号21H04367（研究代表者：黄曉芬）、研究分担者、2021年度～2026年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「中国古代軍事史の多角的検討—「公認された暴力」のありか—」課題番号19H01318（研究代表者：宮宅潔）、研究分担者、2019年度～2024年度。
- ⑦放送大学、「中国と東部ユーラシアの歴史」第1回～第5回。
- ⑦コメンテーター、第66回国際東方学会議シンポジウム「漢晋変革の考古学的研究」、東方学会（オンライン）、2022年5月21日。
- ⑦記念講演「嘎仙洞刻石祝文にみる北魏王権の多元性—天子・皇帝・可汗・太平真君の称号をめぐる—」、2022年度東洋史学会総会、龍谷大学（オンライン）、2022年6月3日
- ⑦ゲストスピーカー、甲南大学国際理解D「東アジアのなかの藤原京と平城京」、2022年10月22日。
- ⑦学会開催、史学会シンポジウム「君主号と歴史世界」、東京大学、2022年11月12日。
- ⑦コメンテーター、国際シンポジウム「中国古代軍事史の多角的検討」、京都大学（オンライン）、2022年12月11日。
- ⑦基調講演「中国史の時空間—内藤湖南から東部ユーラシア史まで—」、学習院大学東洋文化研究所設立第70周年記念シンポジウム「世界に展開する東洋学—海外と日本の中国史研究—」、学習院大学、2022年12月17日。
- ⑦講演「東アジア都城の系譜—『周礼』考工記から藤原・平城京まで—」、連続講演会「都市の世界史」、東京大学（オンライン）、2023年1月17日。

森本一夫（RASAL・U-PARL 兼務教員/東洋文化研究所）

- ①森本一夫（責任編集）『東洋文化』103号（特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー

一族をめぐる多様な語りと語り手たち」2023年3月、250頁。

① 森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真（編）『イスラームの内と外から：鎌田繁先生古稀記念論文集』ナカニシヤ出版、2023年3月、x+668頁。

② 森本一夫「現代イランの大衆向けサイド論：バーゲリヤーン・モヴァッヘッド著『サイドの奇蹟』をめぐる」『東洋文化』103号（特集号、森本一夫〔責任編集〕『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち）、2023年3月、31-54頁。

② 森本一夫「覚え詩作りに興じるマムルーク朝期のウラマー：ムハンマドに似た人を探せ」森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真（編）『イスラームの内と外から：鎌田繁先生古稀記念論文集』ナカニシヤ出版、2023年3月、482-501頁。

② 森本一夫「山々に守られた辺境の解放区：カスピ海南岸地域のアリー裔政権（864-930/31年）」大黒俊二・林佳世子（責任編集）、大月康弘・清水和裕（編集協力）『西アジアとヨーロッパの形成 8~10世紀』（岩波講座世界歴史第8巻）岩波書店、2022年6月、147-178頁。

③ 森本一夫「はじめに」『東洋文化』103号（特集号、森本一夫〔責任編集〕『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち）、2023年3月、1-8頁。

③ 森本一夫「序」マンスール・セファトゴル著『サファヴィー朝期イランの王室官房書簡記録簿：外交文書草稿・往来・作成要領の記録（ヨーロッパ、オスマン朝、ムガル朝、中央アジア諸ハン国との対外関係に関する研究）』東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2023年3月4日。

③ Kāzū'ū Mūrīmūtū, "Muqaddamah," in Mansūr Şifatgul, *Bayāḍ-i daftarkhāna-yi humāyūnī-ye dawlat-e Īrān-e 'Aṣr-i Şafawī: Daftar-i musawwada, thabt wa dastūr-i dabīrī-yi nigārish-i nāma-hā-yi dīplūmātik (Pazhūhishī pīrāmūn-i rawābiṭ-i khārijī-yi Īrān dar rūzgār-i Şafawī)*, Markaz-i Pazūhish wa Ittīlā'-rasānī dar Muṭālī'āt-i Āsiyāyī, Mu'assisa-yi Muṭālī'āt-i Pīshrafta-yi Āsiyā, Dānishgāh-i Tūkyū, 2023.3, xxi-xxii.

③ 森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真「はじめに」森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真（編）『イスラームの内と外から：鎌田繁先生古稀記念論文集』ナカニシヤ出版、2023年3月、i-iv頁。

③ 森本一夫「あとがき」森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真（編）『イスラームの内と外から：鎌田繁先生古稀記念論文集』ナカニシヤ出版、2023年3月、660-662頁。

③ 森本一夫「12 イマーム派の預言者伝（イラン）」イスラーム文化事典編集委員会編『イスラーム文化事典』丸善出版、2023年1月、310-311頁。

④ Kazuo Morimoto, "Three Updates on Ibn 'Inaba and His Oeuvre," *Giornate di studio in memoria di Biancamaria Scarcia Amoretti. Sciismo e minoranze nel mondo musulmano in epoca classica*, Università di Catania, Dipartimento di Scienze Umanistiche (Catania, Piazza Dante 32, ex Monastero dei Benedettini, 1-2 dicembre 2022), December 2, 2022.

⑥ 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして」課題番号 19H01317、研究代表者、2019年度～2022年度。

⑥ 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」課題番号 19H00564（研究代表者：赤堀雅幸）、研究分担者、2019年度～2023年度。

河原弥生（RASARL 准教授）

- ①河原弥生編『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料目録』2 (アジア研究図書館叢書 2)、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023 年 3 月。
- ②河原弥生「19 世紀フェルガナ盆地におけるミールザーたちの系譜書—コーカンド・ハーンの母方の系譜として—」『東洋文化』103 号、2023 年 3 月、205-228 頁。
- ③イスラーム文化事典編集委員会編『イスラーム文化事典』丸善出版、2023 年 1 月（「宗教施設、建築（中央アジア）」（540-541 頁）を担当）。
- ④河原弥生「19 世紀フェルガナ盆地のミールザーたちの系譜書：コーカンド・ハーンとの関係から」科学研究費補助金「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新を目指して」2022 年度第 1 回研究会、2022 年 6 月 12 日。
- ④Kawahara Yayoi, “Creating Nasab-nāma Documents: On the New Historical Sources from the Territory of the Khanate of Khoqand,” International Conference on Sustainable Tourism, Pilgrimage, and Sacred Heritage: the People Protecting Monuments - The Legacy of Ahmad Yasawi, 2022 年 10 月 26 日。
- ④河原弥生「二通の系譜書を作成すること：コーカンド・ハーン国期の新出史料の検討」科学研究費補助金「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして」2022 年度第 2 回研究会、2022 年 11 月 5 日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）「19 世紀初頭の中央アジア知識人の著作と世界認識：歴史叙述と旅行記の検討を通して」、課題番号 21K00903、研究代表者、2021 年度～2024 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B））「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして」課題番号 19H01317（研究代表者：森本一夫）、研究分担者、2019 年度～2022 年度。
- ⑦非常勤講師 東京外国語大学言語文化学部「現代ウズベク語の成立」。
- ⑦非常勤講師 早稲田大学文化構想学部「多元文化論系演習（遊牧・オアシス文化論）中央アジアの歴史と文化」。
- ⑦非常勤講師 駒澤大学文学部「東洋史特講 VA」「東洋史特講 VB」。
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ムハンマド一族をめぐる諸言説の研究」（主任：森本一夫）、共同研究者。

河崎豊（RASARL 助教）

- ①河崎豊・藤永伸（編・訳）『ジャイナ教聖典選』、国書刊行会、2022 年 9 月。
- ①河崎豊（編）『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』3 (アジア研究図書館叢書 3)、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023 年 3 月。
- ②Yutaka Kawasaki, “A Note on the Concept of Compassion in Early Jainism.” Nagabharana: Recent Trends in Jainism (Festschrift to Prof. Hampa Nagarajaiah (Hampana)). Edited by Pedarapu Chenna Reddy. Delhi: Blue Rose Publishers, 2022, pp. 119-128.
- ②河崎豊「布の裁断は暴力か」『ジャイナ教研究』28、2022 年 9 月、1-19 頁。
- ②河崎豊「Āvassayanijjuttī 19 章の瞑想定義」『印度學佛教學研究』71(1)、2022 年 12 月、474-468 頁。
- ②河崎豊「ジャイナ教のクシャトリヤ観」『ブラフマニズムとヒンドウイズム 1 古代・中世イ

ンドの社会と思想』、藤井正人・手嶋英貴編、法蔵館、2022年12月、217-238頁。

②河崎豊「ジャイナ教文献が記す葬送儀礼」『ブラフマニズムとヒンドゥイズム2 古代・中世インドの宗教と実践』藤井正人・手嶋英貴編、法蔵館、2022年12月、255-277頁。

③河崎豊「白衣派ジャイナ教戒律文献の海」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』8、2022年7月、3-6頁。

③河崎豊「ジャイナ教書誌備忘」『ジャイナ教研究』28、2022年9月、111-127頁。

③Yutaka Kawasaki “Equivalents of the Seventy-five Elements in Pāli Texts up to the Works of Buddhaghosa.”『国際東方學者會議紀要』66、2022年12月、96-97頁。

④河崎豊「ブッダゴーサの著作に至るパーリ文献の五位七十五法対応語」第66回国際東方学者会議、2022年5月21日。

④河崎豊「Āvassayanijjuttī XIX における「身口意の瞑想」について」日本印度学仏教学会第七三回学術大会、2022年9月3日。

④河崎豊「近年のジャイナ教戒律研究の動向と今後の展望」日本印度学仏教学会第七三回学術大会、2022年9月4日。

④河崎豊『「ジャイナ教聖典選」の出版によせて』ジャイナ教研究会第37回研究会、2022年10月29日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「アーヴァシユヤカ文献を中心とする「身体放棄行」というジャイナ教瞑想法の総合的研究」課題番号21K00048、研究代表者、2021年度～2023年度。

⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「上座部文献の研究」（主任：馬場紀寿）。

⑦環インド洋地域研究・大阪大学拠点（HINDOWS）、研究分担者。

河野正（RASARL 助教）

③河野正「日本人研究者による華北農村調査の異同について（3）—『中国農村変革と家族・村落・国家』と『二十世紀華北農村調査記録』の比較検討」『学習院大学国際センター研究年報』第9号、2023年2月、99-112頁。

④河野正「中国共産党統治下における村落秩序の再編—1950年代河北省農村から—」東京大学社会科学研究所・社研セミナー、2022年5月10日（オンライン開催）。

④河野正「中華人民共和国初期、華北村落に見る人的結合の複層性—対策としてのむすびつき—」2022年度政治経済学・経済史学会春季学術大会 春季総合研究会「「結合関係」の比較社会史」、2022年6月25日（オンライン開催）。

④河野正「中国仏教研究資料探索」アジア研究図書館資料セミナー、2022年10月12日（東京大学本郷キャンパス）。

④河野正「農業集団化時期、李翼事件をめぐる一考察」京都大学人文科学研究所ワークショップ「毛沢東時代の暴力とイデオロギー」、2022年12月10日（京都大学吉田キャンパス）。

④河野正「「噂」から見る中国社会—中華人民共和国初期農村社会における「謠言」—」東京大学ヒューマニティーズセンター第85回オープンセミナー、2023年1月13日（オンライン開催）。

④河野正「「匯編」と統計資料—統計から見る中華人民共和国初期の社会」東洋文庫アカデミア「現代中国の海外流出資料とその活用—『中共重要歴史文献資料匯編』の可能性—」、2023年3月15日（オンライン開催）。

- ⑦高潔「習仲勲長葛人民公社調査」に対するコメント（第 11 届日中共同「中国当代史研究」工作坊）：コメンテーター、2022 年 11 月 26 日。
- ⑦高暁彦『『大衆動員』とは何だったのか？——貴州省東北部における農業集団化の展開と民兵（1954-1956）』に対するコメント（アジア政経学会第 32 回定例研究会）：コメンテーター、2023 年 3 月 25 日。
- ⑥日本学術振興会 学術研究助成基金助成金（若手研究）「人民公社初期、華北村落社会の変容」2019 年 4 月～2023 年 3 月。
- ⑥東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター公募研究（A）「中華人民共和国初期、草の根世論の外的要因に関する研究」2022 年 10 月～2023 年 3 月。
- ⑦非常勤講師（フェリス学院大学「中国語」）（通年）。
- ⑦学内兼任（東京大学教養学部「初年次ゼミナール文科」（春学期））。
- ⑦兼任（東京大学ヒューマニティーズセンター助教（2022 年 10 月～2023 年 3 月））。

(2) U-PARL メンバー

蓑輪頤量（U-PARL 部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）

- ③蓑輪頤量「令和三年度（令和三年一二月八日）日本文化研究所講演会 瞑想でたどる仏教：心と身体を観察する」『日本文化研究』駒沢女子大学日本文化研究所，第 15 号、2023 年 3 月、25-45 頁。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「仏教学・心理学・脳科学の協同による止観の総合的研究」課題番号 22H00001、研究代表者、2022 年度～2026 年度。

上原究一（U-PARL 副部門長・兼務教員/東洋文化研究所）

- ④上原究一「新发现明刊本小说《新刻汇正十八国斗宝传》初探」（中国語）第 21 届中国古代小说戏曲文献暨数字化学术研讨会，東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門主管（オンライン）、2022 年 8 月 29 日。
- ④上原究一「葉限はいつから漢字文化圏のシンデレラとなったか？」グローバル・ヒューマニティーズ研究会シンデレラ・ワークショップ第 2 回、オンライン、2022 年 10 月 30 日。
- ④上原究一「張飛義積嚴顔故事の受容史に見る「脱境界」」2022 年度日韓 4 研究所合同シンポジウム，延世大学，2023 年 1 月 17 日。
- ④上原究一「東洋文化研究所新収図書『新刻彙正十八國闘寶傳』をめぐって一新発見の明代小説一」第 20 回東京大学東洋文化研究所公開講座「アジアの書」、オンライン、2022 年 10 月 15 日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「明末清初における官刻・家刻・坊刻それぞれの実態の研究」課題番号 19K13087、研究代表者、2019 年度～2022 年度。

大串和雄（U-PARL 兼務教員/大学院法学政治学研究科）

- ②大串和雄「ラテンアメリカ諸国から見たウクライナ戦争」東京大学東京カレッジ Working Paper Series、2022 年 4 月 25 日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「移行期正義の逆流—ラテンアメリカにおける「移行期正義」の受容と拒絶」課題番号 22K01300、研究代表者、2022 年度～2026 年度。

松本武祝（U-PARL 兼務教員/大学院農学生命科学研究科教授）

- ②松本武祝「太平洋問題調査会（IPR）における土地利用研究プロジェクトの展開—中国・日本・朝鮮の研究を中心に—」『アジア経済』63 巻 3 号、2022 年 9 月、2-33 頁。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「地方行政領域の歴史的系譜に関する比較史分析—日本・朝鮮・中国・インド」課題番号 21H02298、研究代表者、2021 年度～2023 年度。

海野聡（U-PARL 兼務教員/大学院工学系研究科准教授）

- ①海野聡『森と木と建築の日本史』岩波書店、2022 年 4 月。
- ①海野聡『日本建築史講義：木造建築がひもとく技術と社会』学芸出版社、2022 年 5 月。
- ①海野聡・佐藤有希子監修『日本の古寺：建築と仏像を愉しむ』宝島社、2022 年 11 月。
- ①海野聡『再生する延暦寺の建築：信長焼き討ち後の伽藍復興』吉川弘文館、2023 年 1 月。
- ②海野聡・田島公編『国際研究集会「御所（宮殿）・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』東京大学史料編纂所、2022 年 12 月。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質」課題番号 18H01618、研究代表者、2018 年度～2022 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「東アジアにおける工匠関連史料にもとづく建築生産史の再構築と技術蓄積・伝播の解明」課題番号 22H00231、研究代表者、2022 年度～2026 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（挑戦的研究（萌芽））「美術史学・考古学・建築史学の複合手法による東アジア建築技術伝播ルートの解明」課題番号 22K18841、研究代表者、2022 年度～2024 年度。
- ⑦海野聡・韓国建築史学会共催"International Academic Conference on Architectural Technology and Information in Ancient East Asia," 韓国建築史学会会議室、2023 年 3 月 5 日。

永井正勝（U-PARL 副部門長・特任准教授）

- ①安岡義文・大城道則・永井正勝編著『感動のエジプト考古学』株式会社 SPICY、2023 年 8 月。
- ②Masakatsu Nagai, "Notes on the Hieratic Script of Pap Turin Cat 1885 in the Collection of the Egyptian Museum Turin", Kawai Nozomu & Benedict G. Davies eds. *The Star Who Appears in Thebes Studies in Honour of Jiro Kondo*, Abercromby Press: Wallasey, 2023.6, pp. 309-319.
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究(C))「古代エジプト神官文字写本の地域差を含めた言語記述と IIF 検索プラットフォームの構築」課題番号 21K00472、研究代表者、2021 年度～2023 年度。
- ⑦東京大学大学院人文社会系研究科「エジプト語」。
- ⑦駒澤大学大学院人文科学研究科「西洋史学特講VIII」。
- ⑦早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員。
- ⑦東京外国語大学、AA 研究共同利用・共同研究課題「アジア文字文化基盤の構築(3)」共同研究員（代表：荒川慎太郎）。
- ⑦ユースケース創出課題「人文学研究における「読み」を共有するためのデジタルアーカイブ構築・AI 活用ワークフローの確立」共同研究員（代表：大向一輝）。

徳原靖浩 (U-PARL 特任助教)

- ④徳原靖浩「アジア資料の組織化の課題」日本図書館研究会情報組織化研究グループ月例研究会（オンライン開催）、2022年6月18日。
- ④徳原靖浩「アジア資料の目録作成：課題と展望」アジア情報関係機関懇談会、国立国会図書館関西館、2023年2月10日。
- ⑦公益財団法人東洋文庫、研究員（客員）。
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ペルシア語文化圏研究」（主任：森本一夫）、共同研究者。
- ⑦非常勤講師 東京外国語大学世界教養プログラム「ペルシア語講読 II」。

荒木達雄 (U-PARL 特任研究員)

- ③荒木達雄「『鍾伯敬先生批評忠義水滸伝』解題」、『東京大学所蔵水滸伝諸版本に関する研究成果報告集』、2022年8月1日、29-36頁。
- ③中村覚、荒木達雄「東京大学蔵水滸伝諸版本テキストデータ作成について」、『東京大学所蔵水滸伝諸版本に関する研究成果報告集』、2022年8月1日、37-50頁。
- ④荒木達雄「中国の古文獻にパンダの姿を求めて」、東京都立大学オープンユニバーシティ秋季講座『大人のためのパンダ学講座』、2022年10月29日。
- ④荒木達雄「旧時代日本人如何對待白話小説？—以三十卷本《水滸伝全本》筆記窺見其學習過程—」、ワークショップ「書頁辺縁：從声音、形象到文本世界工作坊」、中央研究院中国文哲研究所、2022年11月25日。
- ④荒木達雄「東京大学所蔵『水滸伝』諸版本について」、東京大学人文社会ウィーク「アジアの資料をむすび、ひらく—デジタルコレクションの可能性—」開催記念セミナー、2023年3月6日。
- ⑦「古代中国の伝承に残るパンダのような不思議な動物とは？ 文献からたどるパンダの足あと」（インタビュー記事）、AERA.dot、2022年5月17日。
- ⑦非常勤講師 神奈川大学国際日本学部「日本語演習／留学生対象中日翻訳」。
- ⑦非常勤講師 桜美林大学リベラル・アーツ学群「中国文言文講読／漢文入門」。
- ⑦非常勤講師 桜美林大学リベラル・アーツ学群「中国古典文学研究 A・B」。

澁谷由紀 (U-PARL 特任研究員)

- ②澁谷由紀「サイゴン・ホーチミン市：移住者たちが作り上げた国際商工業都市」岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための63章』〈エリア・スタディーズ39〉第3版、明石書店、2022年2月、114-118頁。
- ②澁谷由紀「演劇・芸能：ベトナム伝統演劇のいま」岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための63章』〈エリア・スタディーズ39〉第3版、明石書店、2022年2月、273-277頁。
- ③澁谷由紀・宇戸優美子「東京大学アジア研究図書館における『東南アジア三文庫』の整理」『東京大学アジア研究図書館ニューズレター』第7号、2022年4月1日、10-16頁。
- ③澁谷由紀「【アジア研究この一冊！】古田元夫文庫の革命期南ベトナム切手関係本について」<https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/japanese/this-book19>、2022年11月8-9日。
- ③柳澤雅之・澁谷由紀・小川有子・藤倉哲郎編『百穀社通信』21号、2023年3月。

- ④小川有子・柳澤雅之・藤倉哲郎・澁谷由紀・富塚あや子・古橋牧子・Võ Minh Vũ・Bùi Thanh Thủy「ベトナム紅河デルタ農村における地域住民と協働したオンライン・フィールドワークの試み」2022年度海外学術調査フェスタ（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催）（オンライン開催）、2022年6月25日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「GISを利用した近現代史資料の集約・可視化によるベトナム南部村落の類型化」課題番号19K13441、研究代表者、2019～2023年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B）・一般）「ベトナム紅河デルタ村落における共同体の再編—生計の多様化と生活の安定化」課題番号21H03707（研究代表者：柳澤雅之）、研究分担者、2021～2025年度。
- ⑦澁谷由紀「世界を知ろう～ベトナム編～」市民企画提案による公民館主催講座「世界を知ろう！～持続可能な多文化共生社会に向けて～」、東京都稲城市第三文化センター、2022年12月15日。
- ⑦非常勤講師 法政大学通信教育部「東洋史特講（東南アジア史）」。
- ⑦非常勤講師 法政大学文学部「東洋史特講Ⅱ」。
- ⑦非常勤講師 放送大学教養学部「ベトナム近現代史」。
- ⑦非常勤講師 放送大学教養学部「ベトナム語の初歩：作文編」。
- ⑦非常勤講師 放送大学教養学部「50-60年代東南アジアの文化」（オムニバス）。
- ⑦非常勤講師 神田外語大学外国語学部「ベトナムの文化・芸術」。

須永恵美子（U-PARL 特任研究員）

- ②須永恵美子「南アジア研究トピックの変遷—学術論文データベースを活用したテキストマイニングによる分析—」『高崎商科大学紀要』第37巻、2022年12月、211-216頁。
- ②須永恵美子「宣教、宗教教育（南アジア）」八木久美子他編『イスラーム文化事典』丸善出版、2023年1月、490-491頁。
- ②須永恵美子「タブリーグ」八木久美子他編『イスラーム文化事典』丸善出版、2023年1月、498頁。
- ②須永恵美子「ワクフ、喜捨、相続（パキスタン）」八木久美子他編『イスラーム文化事典』丸善出版、2023年1月、216-217頁。
- ②須永恵美子「地域ごとの装い（パキスタン）」八木久美子他編『イスラーム文化事典』丸善出版、2023年1月、92-93頁。
- ②須永恵美子「異なる言語の間をつなぐ言語—インド洋世界におけるウルドゥー語の役割—」黒木英充・後藤絵美編『イスラームからつなぐ1 イスラーム信頼学へのいざない』東京大学出版会、2023年3月、83-98頁。
- ②須永恵美子「現代のプリズム4 パキスタン◇罪深き女たちの詩」長沢栄治監修、岡真理、後藤絵美編『記憶と記録にみる女性たちと100年』明石書店、2023年3月、203-208頁。
- ③須永恵美子「バハーワルプール：藩王のジュエリー」『パーキスターン』第276号、2022年4月、18-21頁。
- ③須永恵美子「ラホールの宝石市場」『パーキスターン』第277号、2022年8月、16-18頁。
- ③須永恵美子「ペシャール：国内最大の宝石マーケット」『パーキスターン』第278号、2023年1月、1-6頁。

- ④野沢恵美子、須永恵美子、「南アジアの言語と教育—階層・国家・グローバリゼーション—多言語国家パキスタンにおけるウルドゥー語教育の選択」、日本言語政策学会（JALP）第24回研究大会 21世紀の言語普及地図、2022年6月18日。
- ④須永恵美子、野沢恵美子「英語教育プログラムと国語教育の均衡—南アジアの多言語構造を記録する」第227回東アジア英語教育研究会、2022年7月23日。
- ④ Kumakura, Wakako; Sunaga, Emiko. “Visualizing Academic Networks and Trends through Acknowledgements: Japanese Scholars in Islam-related Studies” DH2022. (Online), Proceedings: 28th July 2022, pp. 510-512.
- ④須永恵美子「学術データベースからみる2000年以降のウルドゥー語研究」日本南アジア学会第35回全国大会、帝京大学、2022年9月24日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「デジタル・コミュニケーション時代のウルドゥー語の地位を巡る基礎的研究」課題番号 21K17936、研究代表者、2021～2025年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（学術変革領域研究（A））「やさしいウルドゥー語と多言語社会の言語サービスを巡る基礎的研究」課題番号 21H05373、研究代表者、2021～2022年度。
- ⑦非常勤講師 日本女子大学人間社会学部「社会と文化：イスラム」。
- ⑦非常勤講師 高崎商科大学短期大学部「多様性と社会」。
- ⑦立命館大学立命館アジア・日本研究機構「南アジアにおけるウルドゥー語の広域性と宗教出版」、客員協力研究員。

中尾道子（U-PARL 特任研究員）

- ①川西裕也・中尾道子・木村拓編『壬辰戦争と東アジア—秀吉の対外侵攻の衝撃』東京大学出版会、2023年3月。
- ②中尾道子「脇本十九郎と朝鮮絵画—近代における日本人研究者のまなざしとその認識—(와키토 소쿠로(脇本十九郎)와 조선회화-근대 일본 연구자의 시선과 그 인식-)」『第5回日韓文化財研究フォーラム』韓国国外所在文化財財団、2022年8月、37-62頁。
- ②中尾道子「『北関遺蹟図帖』の表現とその系譜—戦争の記憶と絵画—」川西裕也・中尾道子・木村拓編『壬辰戦争と東アジア—秀吉の対外侵攻の衝撃』東京大学出版会、2023年3月、405-432頁。
- ③Jee-Young Park, Kyeong-Hee Choi, Hyounghae Lee, Michiko Nakao, Jude Yang, Yuan Zhou, “Bibliography of East Asian Periodicals (Colonial Korea 1900-1945).”, The University of Chicago, July 2022. <https://www.lib.uchicago.edu/collex/collections/bibliography-of-east-asian-periodicals-colonial-korea-1900-1945/>
- ③나카오 미치코 (NAKAO Michiko) 「도쿄대학 소장 일제시기 한국관련 자료 -아시아연구도서관 소장 자료를 중심으로- (Pre-1945 materials on Korea at the University of Tokyo-Focus on the Asian Research Library Collection-)」『한국독립운동사연구 (Journal of Korean Independence Movement Studies)』제 80 집, 독립기년관 한국독립운동사연구소, 2022년 11월, 373-379頁 (招待)。
- ④中尾道子「脇本十九郎と朝鮮絵画—近代における日本人研究者のまなざしとその認識—」第5回日韓文化財研究フォーラム、韓国国外所在文化財財団（オンライン開催）、2022年8月26日（招待）。
- ④中尾道子「朝鮮絵画史研究と脇本十九郎—近代日本人研究者のまなざしとその認識—」朝

鮮史料研究会、学習院大学東洋文化研究所（ハイブリッド開催）、2022 年 11 月 24 日。

⑥UChicago Global Provost's Global Faculty Award 2021-22 “Bibliography of East Asian Periodicals (Colonial Korea 1900-1945)”, Project Leader, 2021-2022.

⑦非常勤講師 青山学院大学「韓国語I」。

⑦非常勤講師 京都府立大学「東洋美術史」。

⑦非常勤講師 京都芸術大学通信教育部「アジア美術論」。

⑦講師 早稲田大学エクステンションセンター夏学期講座「はじめての朝鮮絵画史—隣国の美に親しむ」。

宮本亮一（U-PARL 特任研究員）

②宮本亮一「前イスラーム時代における中央アジア勢力の南アジア進出」青山亨ほか編『アジア人物史』（1：神話世界と古代帝国）集英社、2023 年 1 月、691-745 頁。

②宮本亮一「ワフシュ神とラームセート神：バクトリア語文書から見たトハーリスターンにおける宗教事情の一側面」公益財団法人東洋哲学研究所編『仏教東漸の道』1（インド・中央アジア篇）、2023 年 3 月。

②宮本亮一「バクトリア語とその資料」公益財団法人東洋哲学研究所編『仏教東漸の道』1（インド・中央アジア篇）、2023 年 3 月。

②Miyamoto, R. “Letters from Kadagstān”, *Bulletin of the Asia Institute* (n.s.) 31, 2022.

③宮本亮一「言語の名前と地域名」『月刊みんぱく』46/4、2022 年 4 月、20 頁。

③宮本亮一「アフガニスタン周辺のコイン」『シルクロード学研究会 2022 冬』資料集、2022 年、38-53 頁。

④宮本亮一「バクトリア語資料と中央アジア史：新資料・新研究の紹介と今後の展望」、「前近代内陸アジアとその隣接地域の社会と文化」班、京都大学人文科学研究所（オンライン）、2022 年 5 月 27 日。

⑥科学研究費補助金・若手研究「古代中央アジアにおけるフン系集団の研究」20K13198、代表：宮本亮一、2020～2023 年度。

⑦東京大学東洋文化研究所、「ペルシア語文化圏研究」班（主任：森本一夫）、共同研究者。

⑦京都大学人文科学研究所、「前近代内陸アジアとその隣接地域の社会と文化」班（班長：稲葉穰）、班員。

IV.構成員等名簿

4.1 運営委員会名簿

令和4年度のアジア研究図書館運営委員会名簿は以下の通りである。

令和4年4月～6月

城山智子（委員長 / 大学院経済学研究科）
 平野聡（大学院法学政治学研究科）
 佐川英治（大学院人文社会系研究科）
 松本武祝（大学院農学生命科学研究科）
 川島真（大学院総合文化研究科）
 森本一夫（東洋文化研究所）
 石川博康（社会科学研究所）
 荻部直（附属図書館副館長 / 大学院法学政治学研究科）
 蓑輪顕量（大学院人文社会系研究科）
 永井正勝（U-PARL）
 河原弥生（RASARL）
 木下聡（附属図書館事務部長）

令和4年7月～令和5年3月

佐川英治（委員長 / 大学院人文社会系研究科）
 平野聡（大学院法学政治学研究科）
 肥爪周二（大学院人文社会系研究科）
 松本武祝（大学院農学生命科学研究科）
 小島庸平（大学院経済学研究科）
 川島真（大学院総合文化研究科）
 森本一夫（東洋文化研究所）
 石川博康（社会科学研究所）
 荻部直（附属図書館副館長 / 大学院法学政治学研究科）
 蓑輪顕量（大学院人文社会系研究科）
 永井正勝（U-PARL）
 河原弥生（RASARL）
 木下聡（附属図書館事務部長）

4.2 構成員名簿

令和5年3月31日現在の構成員は以下の通りである。

館長：佐川英治（大学院人文社会系研究科）

RASARL構成メンバー

佐川英治（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）
 森本一夫（兼務教員/東洋文化研究所）
 河原弥生（准教授）

河崎豊（助教）

河野正（助教）

U-PARL構成メンバー

蓑輪顕量（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）

上原究一（副部門長・兼務教員/東洋文化研究所）

大串和雄（兼務教員/大学院法学政治学研究科）

松本武祝（兼務教員/大学院農学生命科学研究科）

海野聡（兼務教員/大学院工学系研究科）

永井正勝（副部門長・特任准教授）

徳原靖浩（特任助教）

荒木達雄（特任研究員）

澁谷由紀（特任研究員）

須永恵美子（特任研究員）

中尾道子（特任研究員）

宮本亮一（特任研究員）

別紙 1

アジア研究図書館資料寄贈受入要領

アジア研究図書館に対する資料の寄贈申入れがあった場合の判断および取扱いは以下のとおりとする。

1. 受入基準

寄贈資料の受入は、アジア研究図書館資料収集基準の他、次に掲げる条件を考慮し、判断する。

- (1) アジア研究図書館、総合図書館蔵書等との重複
- (2) 汚損・破損等の資料の状態
- (3) 資料の量、特に書架状況や整理経費への影響
- (4) その他、アジア研究図書館の運用・管理上の支障の有無

2. 受入の単位と判断

寄贈資料の受入の決定は、次のとおりとする。

- (1) 1冊または少数の資料、著者や出版者等による個別の寄贈資料については、1冊毎に受入の可否をアジア研究図書館研究開発部門（以下、「研究開発部門」という。）が判断し、決定する。
- (2) 個人または団体による多数の寄贈資料は、以下の（3）および（4）に該当する場合を除き、一括して受け入れることはせず、1冊毎に受入の可否を研究開発部門が判断し、決定する。
- (3) 個人または団体による多数の寄贈資料が研究上貴重である場合、または特徴的な性質を有する集合である場合は、重複資料を除き一括して受け入れることができる。
- (4) 個人または団体による多数の寄贈資料で、（3）の特徴を有し、かつ全体としてまとまっていることで資料的価値が著しく高くなるものについては、一括して受け入れることができる。
- (5) （3）または（4）により受け入れるか否かは、研究開発部門が発議し、以下の手順により決定する。
 - ① 対象資料に関連する分野を専門とする学内または学外の有識者に学術的評価を依頼する。
 - ② あらかじめ学内または学外の有識者から学術的評価に基づく推薦書の提出があった場合は、①の依頼を省略することができる。
 - ③ 受入の可否をアジア研究図書館運営委員会において審議する。その際は有識者による学術的評価を付す。
 - ④ アジア研究図書館運営委員会の審議結果に基づき、総合図書館長が受入を決定する。

3. 受入後の取扱い

資料の受入後の取扱いは原則として次のとおりとする。

- (1) 配架場所は受入を決定した者が判断する。

- (2) 2.(3) または(4) により一括して受け入れる場合でも、まとめて配架せず、他の資料と混配する。ただし、他の資料と識別するため目録上にコレクション名を掲載することができるものとする。

4. 受入条件

受入にあたっては、次の条件を付けることがある。

- (1) 寄贈者によるタイトルリストの作成
- (2) 寄贈者による重複確認
- (3) 寄贈者による資料状態の確認
- (4) 寄贈者による送付、搬送に関わる費用の負担
- (5) 寄贈者による整理に関わる費用の負担

附則

アジア研究図書館へのコレクション資料の寄贈申入れに関する取扱いについて（令和元年6月17日アジア研究図書館運営委員会）は廃止する。

令和 4 年度東京大学アジア研究図書館活動報告書

令和 5 年 8 月 31 日 発行

編集・発行 東京大学アジア研究図書館研究開発部門

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>